

事業コード	0020203	政策コード	02	政策名	国内外に打って出る攻めの農林水産戦略						
事業名	あきたの大豆生産力倍増支援事業	施策コード	02	施策名	秋田米を中心とした水田フル活用の推進						
		指標コード	03	施策目標(指標)名	あきたの農産物総ぐるみによる多様な水田農業の推進						
部局名	農林水産部	課室名	水田総合利用課	班名	農産・複合推進班	(tel)	1786	担当課長名	佐藤 幸盛	担当者名	山形 茂

評価対象事業の内容

事業年度 平成24年度 ~ 平成28年度

1-1. 事業実施の背景(施策目標の達成のためになぜこの事業が必要であったのか)
 主食用米以外の戦略作物を推進する中で、本県は大豆の栽培面積が全国5位(平成23年)と大豆生産の先進県となっているが、単収の向上や品質の向上、大豆作の長期化に伴う地力低下や連作障害等を回避する輪作体系の確立といった課題があり、作付面積の減少や団地の維持に支障を来している。また、国の経営所得安定対策の実施により、これまで以上に単収や品質の向上が急がれており、大豆が農家の所得確保につながる作物として定着する対策が急務となっている。

5. 前回評価における指摘事項等

指摘事項

1-2. 外部環境の変化及び事業推進上又は完了後に明らかになった問題点
 大豆作の長期化に伴う地力低下等や、集中豪雨による湿害等により、収量・品質への影響がみられている。
 また、新たな経営所得安定対策では、大豆の収量や品質に基づいて交付金が交付されることから、収量・品質の向上が喫緊の課題となっている。

指摘事項への対応

2. 住民満足度の状況(事業終了後に把握したもの)
 満足度を把握した対象 受益者 一般県民(時期: H29年 03月)
 満足度の把握方法 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット
 その他の手法 (具体的に 生産者及びJA、普及指導員からの聞き取り)
 満足度の状況
 実証した水稲3年 - 大豆2年の新たな輪作体系については今後も取り入れたいとの意向を確認した。

6. 事業の内容
 事業概要及び推進状況
 水田転作に伴う湿害と大豆連作に伴う地力低下が収量低下の要因となっているため、新たな施肥播種技術や輪作体系の技術実証を行い、生産性の向上を図る。また、品質向上効果が期待される新品種の現地実証を行い、作業分散による適期の刈り取りによる品質の向上や販売戦略の構築を図る。

3. 事業目的(どういう状態にしたかったのか)
 米の生産調整に左右されず、一定の栽培面積を堅持し、排水・湿害対策の徹底により、高単収・高品質な大豆づくりが実践されている。
 集落営農組織等を中心に、水稲とのブロックローテーションが大規模に行われ、稲作・大豆作の双方で高位安定生産を確保し、生産性の高い水田農業を確立している。

事業費等		単位(千円)	
内 訳		当初計画事業費	最終事業費
新たな技術導入による生産力向上対策事業		11,825	9,947
新品種による品質向上対策事業		1,842	1,509
事業費計		13,667	11,456
財源内訳	国庫補助金		
	県債		
	その他	13,667	11,456
	一般財源	0	0

4. 目的達成のための方法
 事業の実施主体
 県
 事業の対象者・団体
 集落営農組織等
 達成のための手段
 単収300kg、品質Aクラス(1,2等)を目指し、水田作大豆の単収不安定の要因である湿害を回避するための耕起・播種技術である大豆300A技術等の迅速な普及を行う。また、ブロックローテーションと新技術の組み合わせによる、大豆作の地力低下等の問題を解決するための実証を行う。

当初計画及び最終の事業費比較
 最終事業費 / 当初計画事業費 =(0.84)

7. 事業の効果及び課題の改善状況
 湿害回避対策として実証した小畦立て栽培等の大豆300A技術については、普及面積割合が年々増加しており、着実に生産現場に浸透し始めている。また、大豆地力低下への対応として実証した水稲3年-大豆2年の新たな輪作体系については収量を安定させる効果が確認できたため、今後、集落型農業法人や集落営農組織等に普及拡大を図っていく。新品種については、試験成績が良かったため、現地での生産体系に組み入れようとしたが、栽培上の課題（青立ち）が発生したため、普及にすることができなかった。引き続き、優良品種の選定及び普及に努める。

8. 事業の効果把握するための手法及び効果の見込み

指標名	大豆の単収								指標の種類	
指標式	支援対象組織における収重量（10aあたり収量）								成果指標 業績指標	
年度別の目標値（見込まれる効果） 低減目標指標 該当 非該当										
指標	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体		
目標a				240	300	300	300	300	300	
実績b				308	287	350	305		305	
b/a				128.3%	95.7%	116.7%	101.7%			
データ等の出典	対象組織からの聞き取り									
把握する時期	当該年度中 03月			翌年度	月	翌々年度	月			

指標名	大豆の単収								指標の種類	
指標式	全県での大豆平均収重量（10aあたり収量）								成果指標 業績指標	
年度別の目標値（見込まれる効果） 低減目標指標 該当 非該当										
指標	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	全体		
目標a				135	150	165	180			
実績b			124	112	132	166	150			
b/a				83%	88%	100.6%	83.3%			
データ等の出典	作物統計									
把握する時期	当該年度中 03月			翌年度	月	翌々年度	月			

指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法
 指標を設定することが出来なかった理由
 成果（見込まれる効果）

所管課の評価				評価結果
有効性の観点	住民満足度の状況 a b c 【b又はcの場合の分析】			A B C
	事業の効果 適用の可否 可 不可 a 達成率100%以上 b 達成率80%以上100%未満 c 達成率80%未満 【b又はcの場合の理由】			
	実証農家の単収改善は図られているが、全県の平均単収は当初設定した目標に達することができない年度があった。しかし、事業開始当初との比較では事業効果が現れている。			
効率性の観点	事業の経済性の妥当性 適用の可否 可 不可 a 1.0~ b 0.8~1.0 c ~0.8 【評価への適用不可、又はb、cの場合の理由】			評価結果 A 1.0~ B 0.8~ 1.0 C ~0.8
	$\left(\frac{\text{事業終了後の効果}}{\text{最終事業費}} \right) / \left(\frac{\text{当初計画時の効果}}{\text{当初計画事業費}} \right) = 1.21$			
	A (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い) 大豆単収は近年増加傾向にあるが、全国平均にはまだ達していない状況である。実証農家の単収は、国及び東北地域の平均単収を大幅に上回っていることから、研修会等を活用しながら、大豆300A技術の普及をより一層全県に拡大し、大豆栽培農家の技術レベルの底上げを図る。			
総合評価				評価結果の類似事業への反映状況等(対応方針)
				政策評価委員会意見

終了事業事後評価判定点検表

(様式5-1)

(1) 各評価項目の判定基準

観点	評価項目	判定基準	配点	1次	2次	評価結果	
ア有効性	一 住民満足度等の状況	a 住民満足度等を的確に把握しており、満足度も高い	2	2		A:有効性は高い (4点) B:有効性はある (1~3点) C:有効性は低い (0点)	
		b 住民満足度等を把握しているが、手法が的確でない又は満足度が高くない	1				
		c 住民満足度等を把握していない	0				
	二 事業目的の達成状況	a 目標値に対する達成率が全て100%以上	2	1			
		b a、c 以外の場合	1				
		c 目標値に対する達成率のいずれかが80%未満	0				
計			4	3		B	
イ効率性	一 事業の経済性の妥当性	a 当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値(注)が全て1.0以上	2	2		A:効率性は高い (2点) B:効率性はある (1点) C:効率性は低い (0点)	
		b a、c 以外の場合	1				
		c 当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値のいずれかが0.8未満	0				
	計			2	2		A

(注) 事業経済性の算定式

$$\left(\text{事業終了後の効果} / \text{最終事業費} \right) / \left(\text{当初計画時の効果} / \text{当初計画時事業費} \right)$$

上式で、効果とは事業の効果を把握するために設定した指標の実績値をいう。なお累積の実績値を設定している場合は、前年度からの差し引きによる「単年度増加分」を実績値として用います。

(2) 総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価	
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	B	
B (概ね妥当である)	総合評価結果が「A」又は「C」以外の場合		
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合		